なごやの学童保育

市連協ニュース
2020 年度 No. 4/10 月 6 日発行

名古屋市学童保育連絡協議会
TEL（052）-872-1972
FAX（052）-308-3324
E-Mail:info@gakudou-nagoya.org
HP http://gakudou.kodomo.co/ Facebook https://www.facebook.com/NagoyaNoGakudouHoiku

新型コロナに追加助成

名古屋市が国の２次補正予算を受けて提案

名古屋市議会の 9 月定例会に、新型コロナウイルス感染症対策の国の第 2 次補正に体する予算案が提案されました。助成額の上限は国が示す通りで、１学童保育所当たり 50 万円です。10月 13 日の閉会までに可決される見通しです。

なお名古屋市での今回の助成は、国が示すより対象が限られます。国が助成対象として示していたタブレット PC やインターネット環境整備費は対象外で提案されています。

名古屋市での助成対象の例は以下の通りです。

①自動消毒噴霧器や足踏み式消毒液スタンドのように、感染症防止として消毒液を素早く有効に使えるもの
②隔離ができる間仕切りなど（前回紹介あり）
③消毒液やペーパータオルを保管する小型倉庫（建築申請がいるものは不可）
④ペーパータオルや消毒液のような消耗品
⑤かかり増費用

現在購入しているものも領収書等があれば対象となります。詳細は 11 月を目処に要綱が出ます。先に購入したいものがあれば、納品書と領収書をしっかりもらうことが必要です。

来年３月、オンライン開催

あいち学童保育研究集会

名古屋市学童保育連絡協議会（市連協）と愛知学童保育連絡協議会（県連協）は 10 日 5 日、毎年 3 月に共同開催をしている「あいち学童保育研究集会」の実行委員会を開き、2020 年度の研究集会を 2021 年 3 月にオンラインのみで開催することを決定しました。

2019 年度は 3 月 1 日（日）に名古屋市東区のウィルあいちで開催予定でしたが、新型コロナウイルスへの感染拡大を避けるため中止しました。今年度も、コロナ禍の先行きが未だ不透明のため、実会場での開催を断念しました。

基調講演・分科会のテーマや日程などの詳細は、実行委員会で今後詰め、順次お伝えしていきます。ご注目ください。

「共感的な視点」の大切さ共有

「ほいく誌」の交流会

市連協のほいく誌部会は 9 月 13 日（日）、学童保育の月刊誌「日本の学童ほいく」(ほいく誌)の内容を語り合う「ほいく誌交流会」を名古屋市中区金山の労働会館で県連協と共同で開催しました。会場と愛知県内外からのオンラインを合わせ、38 人が参加しました。



当日は、ほいく誌の 2020 年 4－9 月号で「講座：障がいのある子の理解を深める」を連載した静岡県立大学短期大学部講師の佐々木将芳さんもオンラインで参加しました。数多くの質問に答える中、佐々木さんは「共感的な視点」をキーワードに挙げ、「『どうして？』と思うような行動を子どもがしたらそれはサイン。そのサインに気づき、理解すべき」と話しました。そして「いろんな人の実践をふりかえり、咀嚼し、どう保育に生かすかを意識した」と執筆時を振り返りました。

受け入れへの参考に

しょうがい児部会が手引き作成

市連協のしょうがい児部会が、2021 年度に向けた入所活動用に、「しょうがいのある児童受け入れの手引き」を作成しました！ 保護者向け、保護者会役員向け、指導員向けと、対象別に 3 種類を用意し、各区の学童保育連絡協議会を通じて市連協加盟の学童保育所に配布しました。

しょうがい児部会では、しょうがい児の保護者向けに交流会を行なっています。その中で、これまで通っていた保育所と学童保育との対応の違いが話題になり、しょうがい児がスムーズに学童保育生活に慣れるためにできることはないかと検討してきました。それがこの手引きです。3 種類の手引きの概要は以下の通りです。

1. しょうがい児の保護者向け

学童保育への入所を検討する時のチェックポイントをまとめました。問合せがあった時にお渡しください。

2. 学童保育所の保護者会役員向け

しょうがい児受け入れの問い合わせ対応や配慮、保育体制の検討についてまとめました。事前に役員みんなで話し合ってみてください。

3. 指導員向け

問い合わせへの対応や配慮について、受け入れをスムーズにするためのチェックポイントをまとめました。指導員のみなさん全員に知っていてもらいたい内容です。

この手引きには、みなさんに知っておいてほしい「障害者差別解消（禁止）法」についてもふれています。しょうがいのある子も学童保育へのスムーズな受け入れができるように、ぜひ参考にしてみて下さい。

ホンネで交流

しょうがい児部会が学習会

市連協のしょうがい児部会は 9 月 26 日（土）に名古屋市中区金山の愛知労働会館で、「しょうがいのある子どもと学童保育の生活を考える」をテーマに学習交流会を開きました。

日本福祉大学教授の木全和巳さんをアドバイザーに迎え、保護者 3 人、指導員 3 人、部員 4 人の計 11 人が参加しました。お茶を飲みながらホンネを出し合い交流ができました。



新型コロナウィルス感染症の拡大により、子どもたちは突然の休校に直面し、マスクの着用などを強いられています。しょうがい児は特に、生活のリズムや環境の変化に見通しが立たず、受け入れにくく戸惑うこともあったようです。今もお気に入りのマスク探し続けている子もいるそうです。

また障害児受入推進助成の理解が十分には学童保育で進んでいないことも話題になりました。この助成金は、しょうがい児の受け入れに対応できる指導員を加配することを条件にしています。しかし慢性的な指導員不足もあり、対応が十分ではない場合もあるようです。

「しょうがいのある子にとっても学童は大好きな生活の場である」、「地域のみんなと一緒に育ってほしい」という親の思いを聞き、指導員も木全先生もみんなが深くうなずいた場面がとても印象的でした。

「完璧を求めすぎないこと」

コロナ対策で学習会

市連協は 9 月 19 日、「新型コロナウィルスが続く中で －家庭で、学童保育でできること－」をテーマにオンライン学習会を開きました。

講師は、あいち小児保健医療総合センター副センター長の山崎 嘉久さんです。山崎さんは、施設全体の消毒より当たり前の清掃や手洗いが重要と強調しました。

さらに免疫力向上の必要を説き、「早寝、早起き、朝ご飯」を推奨しました。子どもたちのストレスやいじめにつながらないよう「対策に完璧を求めすぎないこと」にも留意を促しました。